自動運転に危機感 武蔵境自動車教習所の高橋さん

TOKYO 次代の案内人

#東京 #新型コロナ #関東

2022/6/21 2:00 [有料会員限定]

4月に導入したハイブリッド教習車の前に立つ高橋勇会長

少子化や若者のクルマ離れで、自動車教習所の生徒数は減少傾向が続いてきた。武蔵境自動車教習所（東京都武蔵野市）の会長、高橋勇さんは「自動運転技術が実現すれば、教習所は要らなくなる」と危機感を強める。学科教習のオンデマンド配信などデジタル化に対応しつつ、長女で社長の明希さんを米シリコンバレーに派遣し、次代の教習所のあり方を模索する。

新型コロナウイルスの感染拡大前、高橋さんは米グーグルや米アップルが公道で走行試験する自動運転車をシリコンバレーで視察した。運転手がハンドルに全く触れず、スムーズに走る様子に「（米国の情報技術大手の）GAFAは世の中を一気に変える力がある。10年後には自動運転が実現している可能性がある」と痛感した。

自動運転が当たり前の社会になれば「教習所はなくなる。社員約150人の雇用をどう維持するか」。事業の先細りを想定し、保育園や高齢者介護、中古車販売など多角化を急ぐが、本業を支えるほどには育っていない。

2015年、明希さんが自動運転などについて学ぶため、米スタンフォード大学に留学。明希さんは09年に社長に就き、経営改革に取り組んできたが、渡米後は研究活動に専念し、卒業後も米国で研究を続けている。

「教習所が社会に必要とされる限り、できることはする」と高橋さんはデジタル化に積極的だ。坂道発進やクランク、S字カーブなどの動きをドローン（小型無人機）で上空から撮影。教習運転の前に生徒がタブレット端末で映像を視聴して学べるようにした。脱炭素が求められると、教習車をハイブリッド車に切り替えた。教習所に適した電気自動車（EV）はまだないため、EV化は4年後を計画する。

コロナ禍で大学が休校になり企業の在宅勤務が広がると、申し込みが急増。社員を増やし営業時間も延長して積極的に受け入れた。21年には学科教習のオンライン配信を始めた。生徒数は増え続けて9871人となり、東京都内で最多の教習所になった。オンデマンド配信も始めている。

「コロナ収束後も生徒数を維持しなければいけない」と高橋さん。人工知能（AI）による自動教習についてもリサーチするなど、社長の明希さんと連携しながら常に先進技術を注視している。（堀江耕平）

地域に溶け込み共に栄える

教習所内で地域の人を招いて毎夏開催していた花火大会（2019年8月）

高橋さんが教習所の社長に就いたのは1989年。当時は労働争議が激しく、毎日のように労働組合に突き上げられたという。「社員の目を地域に向けられないか」と、89年末に数人の社員と餅つき大会を開いた。近隣の住人を招いたところ評判になり、翌夏には社員の発案で花火大会を開くようになった。

夏の花火大会はコロナ禍で中止になるまで、毎夏1万人以上が訪れる地元の風物詩となった。地域に溶け込み共に栄えるという意味を込めた「共尊共栄」の経営理念を定め、縮小する市場でも伸びてきた。

それでも「私の経営のやり方は古い」と話す。データを活用した近代的な経営をしたいと思うが、公安委員会の指定自動車教習所として、教習所で得たデータの利活用は認められていないという。